

祝 辞



設備技術の理解に大きな役割

社沖縄県建築士事務所協会

会長 神村盛秀

今回「建築設備」の創刊号が誕生する運びとなりましたことは誠にめでたい限りであります。設備に関する一般社会への認識と地域社会への貢献度をさらに高めるため鋭意努力を重ねてこられ、今回それが結実したことに敬意を表するとともに、広報誌の発刊によって、いよいよ設備技術の一般への理解と会員相互の連携を深めることは誠に意義が大きく、重ねてお慶びを申し上げます。

さて、近年建築物の設計にも大きな変化がみられるようになっております。それにともない、最新の設備技術・機器の取り入れも増大し、生活構造様式の変化に著しいものがみられます。建物の巨大化、高層化等々によって建築技術は急速にすすみ、無限の広がりを見せている感さえいたします。さらには、地域環境に対する問題もあり、人と自然にやさしい建物が広い範囲で要求されるようになって来ております。

そうした多種多様な形での改革により、建築設備の設計内容にもこれまでにない大きな変化をもたらし、高度な技術が要求され、建築工事費に占める設備の比率も高くなっております。技術革新が日々進んでいる昨今、これに対応するために、より高いアピリティーを持たなければならないとおもいます。

このような建築界の流れにあつて、設備設計の建築設計に占める割合も大きくなってはいますが、これは当然の時代のニーズであると認識しております。

昭和58年に設立された沖縄県設備設計事務所協会は40数社の会員メンバーを持ち、賛助会員まで含めると130社近くになり、いよいよ充実し、発展への道を進んでおられると拝しております。この上は貴協会が一日も早い時期をめざし、法人化の実現に努力され、国、県などの公共発注機関の認知を受けるなかで、名実ともにより大きな組織に発展をとげられるよう願うものであります。

「建築設備」創刊を契機に、会員各位の融和が一層はかられるよう祈念し、祝辞に代えたいとおもいます。



一般社団法人 沖縄県設備設計事務所協会